

2025 年 6 月 2 日

アルプスアルパイン株式会社

アルプスアルパインいわき開発センター内に EMC テストラボ新棟竣工 -次世代製品開発に向け評価設備を強化。2026 年 3 月本格稼働-

アルプスアルパイン株式会社（本社：東京都大田区、代表取締役 社長 CEO：泉英男、以下「アルプスアルパイン」）は、福島県いわき市のいわき開発センター内に EMC テストラボ新棟を竣工しました。車載機器のさらなる高精度化と信頼性向上を目的に EMC 試験^{*1} 体制を強化し、自動車の安全性と快適性向上への貢献を目指します。



背景

アルプスアルパインでは、次世代技術開発のため生産・評価設備の拡充を積極的に進めています。

今回、その一環として竣工したのが EMC テストラボ新棟です。

自動車には、カーナビやエンジン、EV のモーターなど、電磁波を発する電子機器が数多く搭載されています。これらは車内外の電子機器と電磁波による干渉を起こし、誤作動を招くことで、重大な事故につながるリスクもあります。こうしたリスクを排除し、自動車の安全性を確保するうえで、EMC 試験は不可欠な評価プロセスの一つとなっています。

車載製品の開発を担ういわき開発センターでは 30 年以上前から EMC 試験の設備を備えていました。しかし、V2X^{*2} 技術の急速な進化に伴い、試験に求められる周波数帯は従来の 2GHz から 10GHz 程度へと約 5 倍に拡大。それにより試験項目、設備、工数が増加し、従来の設備では数と質の面において将来的な対応に限界が見え始めていました。

このたび EMC テストラボ新棟を設立することにより、今後の高度化する評価基準にも柔軟に対応で

きる環境を構築しました。特にサウンドシステムやディスプレイ、インフォテイメント製品など、デジタルキャビンにつながる製品の評価を中心に行い、次世代モビリティに向けた技術発展に貢献します。アルプスアルパインは、今後も設備拡充を進めながら、人と地球に喜ばれる製品・技術の創出に取り組んでまいります。

特長

1. 大型車載製品の評価に対応する EMC 試験室

運転席前面の各種メーターやエアコンスイッチ、オーディオなどの一体化が進んでおり、それに伴いアルプスアルパインが扱う製品は大型化しています。テストラボ新棟では、ピラーto ピラーディスプレイ※3などの大型製品の評価も可能な電波暗室を新たに4基設置します。

2. 環境にも人にも配慮した設計

最新の空調設備を導入し、建屋には太陽光パネル設置を想定した省エネ設計。採光性にも優れ働く人々にとっても快適な空間を提供します。

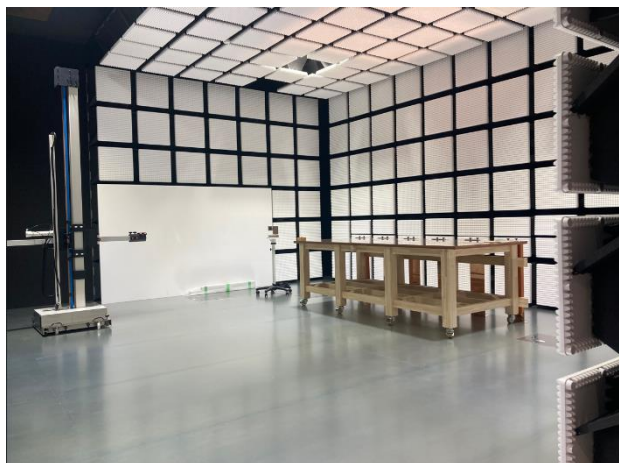
3. 災害に強い構造設計

東日本大震災の経験を踏まえ、あらゆる自然災害に耐えうる強度設計を採用しました。

EMC テストラボ新棟の概要

所在地	福島県いわき市好間工業団地 20-1
階数	地上 2 階
建物面積	909.63 [m ²]
延床面積	1,759.14 [m ²]
用途	事務所、研究所
収容人数	20 人
部屋数	8 室
稼働開始時期	2026 年 3 月末（2025 年 6 月より一部稼働開始）

【参考画像】



▲車載用電波暗室



▲3m 電波暗室

以上

※1 電磁適合性試験。電子機器が周囲に不要な電磁ノイズを出さず、また他の機器からの電磁ノイズにも影響されないことを確認する試験。

※2 Vehicle to X。自動車とあらゆるものをつなぐ技術。

※3 車のフロントガラスの両端にある柱から柱までを繋ぐ大型ディスプレイ

<お問い合わせ先>

アルプスアルパイン株式会社コーポレートコミュニケーション部 PR 課

電話 050-3613-1581（部門直通）

E-mail alpsalpine-pr@alpsalpine.com